



西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

12月号

全国学力・学習状況調査結果公表 ～具体的なアクションで学力向上を図る！(3)～

全国学力・学習状況調査小学校算数A問題の結果から見られる課題を基に、すべての子供の力を伸ばす学習指導の在り方と3学期の「割合」の指導について提案しています。子供を確実に深い理解に導くためには、教師の専門性に裏付けられた支援がポイントとなります。本資料では、授業における「教師の問いかけ」や「割合」の指導における子供への支援について紹介していますので、日常の教材研究にお役立てください。

2学期末懇談に向けて

学期末懇談では、学級間や学年間における対応の差を無くし、すべての先生が学校として保護者に接することが大切です。保護者や児童生徒との信頼関係を高めるために配慮したい点についてまとめていますので、懇談に向けた職員会や学年会等の資料としてご活用ください。保護者との信頼関係を深め、子供が自ら次の目標に向かって意欲をもつことができるよい機会としてください。

特別支援教育ほっと通信 ～授業における支援～

子供に確実に力を付けるためには、学級全体・学校全体での方針に基づき一人一人の実態に合った適切な支援を行うことが大切です。本号では、西部地区の学校で実施されている「すべての子供たちがわかる授業づくり」のための有効な支援についてまとめていますので、自校や子供の実態をふまえた上でご活用ください。

全国学力・学習状況調査結果公表 ～具体的なアクションで学力向上を図る！(3)～

全国学力・学習状況調査小学校算数 A 問題の結果から、すべての子供の力を伸ばす学習指導の在り方と経年継続的な課題・割合に対する対応について提案しています。5年生の3学期では割合の指導が本格的に行われます。自校の課題や指導のポイントを整理した上での教科指導をお願いします。

すべての子供が主体的に考えることができる指導を工夫しましょう！！

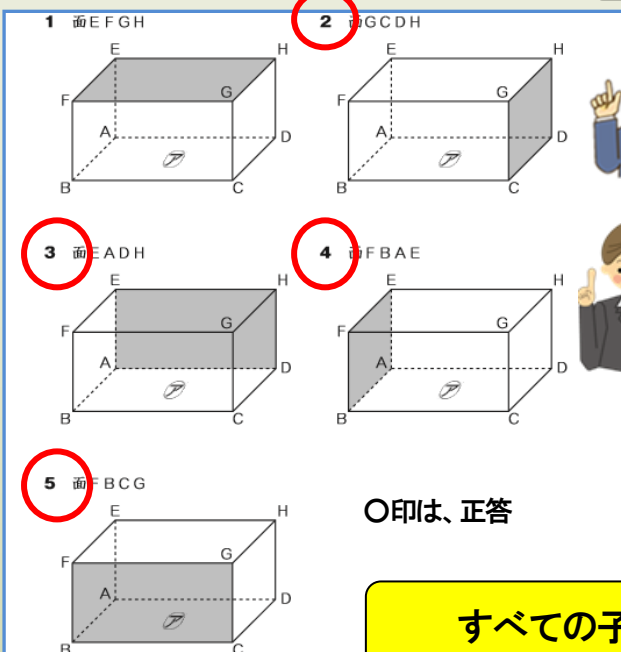
7 直方体の面と面の関係 (小学校4年)

【問題】面①に垂直な面はどれでしょうか？下の1から5までの中から、記号で**すべて**選びなさい。

一部のできる子供が発言して授業が進められていませんか？
どの子供も4つ確実に言えますか？

終末の振り返りを行う前に、「**すべての子供に問い直し、理解度を確認する**」ことも指導の重要な要素です。「垂直な面をすべて選ぶことができますか？」と問い直し、全員の理解度を確認することも重要です。

- 例1) 「1列全員に指名するから、今日のまとめを順番に言ってみましょう。」
- 例2) 「面①と垂直な面に共通することはあるかな？」
- 例3) 「直方体の6面のうち垂直ではない1面の特徴は？」



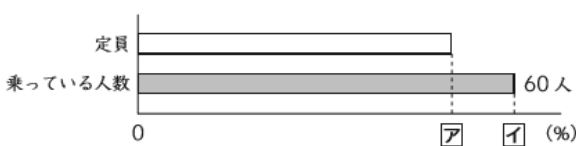
○印は、正答

すべての子供がアウトプットできていることを確認しましょう！

小学校5年生3学期 「割合・百分率」をすべての子供がわかることをめざしましょう！！

9(2) 割合・百分率 (小学校5年)

【問題】バスに乗っている人は60人です。乗っている人数は、定員より20%多い人数です。ア、イに入る数字を選びなさい。



子供たちは、「もとにする量」が定員であることを判断できていません。**問題文を読んで「もとにする量」「比べる量」がどれかを見分ける学習を繰り返しましょう。**

解答を、図の「ア」や「イ」に当てはめ、図から問題に示されている内容について自分なりに説明をしてみる学習活動を取り入れることで、学びは一層深まります。

【苦手な子供には、こんな支援も・・・】

- 興味・関心に応じ、問題場面にお金や野球の打率を取り入れる
- もとにする量と比べる量に印をつけるよう支援する
- 量の関係性を視覚的にとらえるために、図に表せるよう支援を行う
- 理解しやすい式から、立式するよう助言する

割合の3つの式

- ① 比べる量 ÷ もとにする量 = 割合
- ② もとにする量 × 割合 = 比べる量
- ③ 比べる量 ÷ 割合 = もとにする量

子供が理解しやすいのは②



上の問題の定員を②の式で考えると・・・

もとにする量 × 割合 = 比べる量

$$\begin{aligned} \square & \times 1.2 = 60 \\ \square & = 60 \div 1.2 \\ \square & = 50 \end{aligned}$$

答え) 定員は、50人

3学期の指導を職員同士で事前に検討してみましょう！



2学期末懇談に向けて

1学期末懇談では、保護者に児童生徒の成長を示し、2学期以降に向けての期待感がふくらむようにお話されたのではないのでしょうか。

2学期末懇談では、1学期の懇談内容を振り返り、4月からの9ヶ月間で成長した子供の変容の様子をしっかりと伝えと同時に、保護者の思いをしっかりと聞き取りたいものです。

今回は、2学期末懇談がこれからの児童生徒の更なる成長へつなげるため、4つのポイントについてまとめました。

2学期末懇談～4つのポイント～

子ども目線、保護者目線に立つことが大切です。

① 児童生徒を意識的に観察する

◆クラス全体と個人の頑張りを伝えましょう!!!

2学期を振り返って、クラス全体の頑張りと個人の頑張りを保護者に伝えましょう。しかし個人については、なかなか頑張りが思い浮かばない児童生徒もいるのではないのでしょうか。その場合は、懇談の前に教科担任や部活動顧問から聞き取りを行い、情報を集めておきましょう。また、12月に入ってからの様子を意識的に観察することで、これまで見えてこなかった良さも見えてくるかもしれません。

もしかしたら、これまで担任としてよく見ていた児童生徒とそうでなかった児童生徒もわかるのでは？毎日、全員を公平に見ていたつもりが、実はそうでない場合もあるかもしれません。

② 学年で統一すべきことは何？

◆学年で統一すべきことを確認しましょう!!!

あるクラスでは通知表を見せてもらったけど、あるクラスでは見せてもらっていない！これでは、保護者だけでなく児童生徒からも不信感が生まれます。学年や学校として統一して提供する内容や配布物、または提示する資料を確認しておくことが大切です。

また、通知表や成績表等の内容については、細心の注意を払い、学年団で複数回点検を行った上で、管理職への最終点検をお願いしましょう。

その他(懇談日にこんな学校も・・・)



懇談日に、養護教諭や教育相談担当との教育相談(希望制)を設けている学校もあります。担任とは違った立場から、保護者の思いや悩みを聞き取ることで、保護者と学校との信頼関係が深まり、チーム学校として多面的な対応が可能になると思います。

③ 懇談について

◆4月からの子供の変容を具体的に示し、1学期末懇談で伝えた内容を繋ぎましょう!!!

◆課題や弱点の克服策などを具体的に示しましょう!!!

◆懇談をきっかけに保護者との信頼関係をつくりましょう!!!



2学期末の個人懇談は、4月からの子供が成長した変容の様子を具体的に示し、1学期末の懇談で伝えた内容とつなぐ必要があります。これまで学校での姿はどうだったのか、指導の結果、どこがどのように伸びたのか、具体的な子どもの姿を伝えましょう。

課題や弱点を伝えるだけでなく、具体的な解決策も併せて伝えましょう。そして、担任自身も課題や弱点克服のために、一緒になって協力することを示すことが大切です。

また、学校からは見えてこない家庭の様子や保護者の想いや悩みを聞き出すことができれば、保護者との距離がぐっと縮まってくることでしょう。

④ 記憶より記録を

◆懇談後、すぐに記録をとるようにしましょう!!!

事前に話す内容は、前もって準備できますが、懇談時、児童生徒が3学期頑張ることや担任として約束したこと、保護者からの要望等は、懇談後すぐに記録に残すことが大切です。その記録が学年末懇談にもつながっていきます。また、保護者の要望等に対して、何らかの返しが必要な場合は、必ず対応しなければなりません。その際、早急に対応することで、信頼関係はより深まるはずです。



特別支援教育ほっと通信

授業における支援

2016年12月 西部教育局

児童生徒に確実に力を付けるためには、一人一人の実態に基づいた適切な支援が必要です。加えて、学級全体・学校全体での指導の流れが明確にされた上で、個別の支援が行われているということがポイントとなります。指導や支援の方向性が学校全体で明確にされていることは、教師同士の相談や共通した指導・支援において有効であり、児童生徒の成長に大きく寄与します。

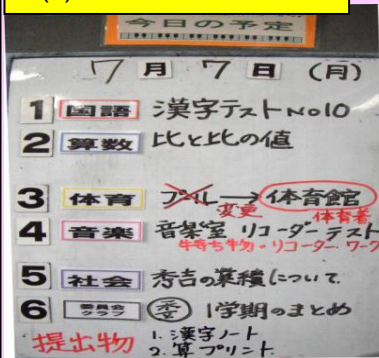
下記の**チェックリスト**を活用し、「教室にいる**みんな**がわかる授業」づくりにお役立てください。



1(3)ホワイトボードの活用

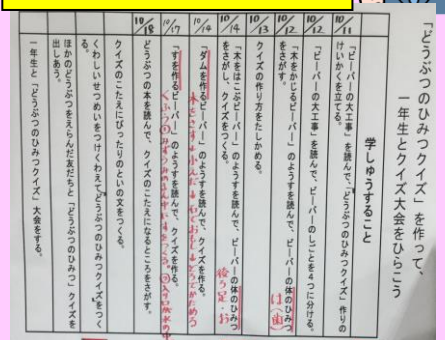
みんながわかる授業につながる支援

1(1)学習の流れの視覚化

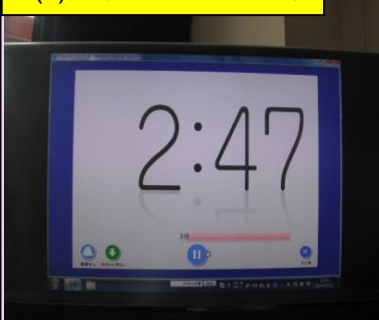


1. 見通しを持って学ぶために

- (1)授業の初めに内容の進め方について全体的な見通しを提示している。
- (2)授業の中で今何が行われているかが分かる工夫をしている。
- (3)時間割の変更などをできるだけ早く伝える工夫をしている。
- (4)タイマーなどを活用して作業時間の区切りが分かるように工夫している。



1(4)ディスプレイの活用

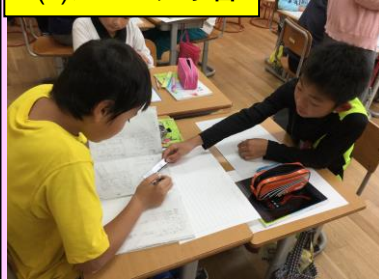


2. 学ぶための負担を軽減するために

- (1)指示・伝達事項は音声言語だけでなく視覚的（板書等）にも提示している。
- (2)抽象的で曖昧な表現をできるだけ避け、具体的な表現に置き換える工夫をしている。
- (3)メモやプリントを活用して記憶に負担がかからないようにしている。



3(1)グループ学習



3. 授業参加を促すために

- (1)わからないことがあった時、児童生徒が質問しやすいように工夫をしている。
- (2)1つの課題が終わったら次にすべきことが常に用意されている。
- (3)集中の持続が可能なように課題の内容や取り組み方に少しずつ変化をもたせている。

1(2)時間の構造化



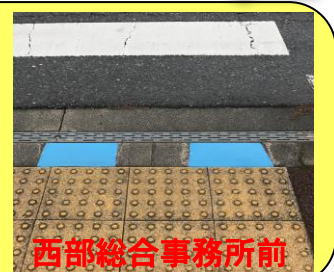
特別な支援を必要とする児童生徒は、適切な働きかけによってできることが増えていきます。一人一人の状況に応じた手順や方法で指導していくことで、「わかった」という経験が増え、その積み重ねが学習や生活への意欲を高めます。

基盤となるのは「教室にいる**みんな**がわかる授業」が日常的に展開されることであり、この延長上に目指す児童生徒の姿があります。



「みんな」を意識したまちづくり！

- ◆右の写真のような工夫が様々なところに施されています。
 - ◆車いす等の車輪幅に合わせて段差が削られている。（バリアフリー化）
 - ◆一目でわかるように色付けされている。（視覚化）
- 特定の人を対象とした支援ではありませんが、みんながわかる授業づくりを展開する上で参考となる視点の一つではないでしょうか。



西部総合事務所前